

第4号様式（第10条関係）

会 議 録 （要 旨）

会 議 名	第4回武蔵村山市市民協働推進会議
開 催 日 時	平成27年10月1日（木）午後6時 ～ 9時
開 催 場 所	中部地区会館401大集会室
出 席 者 及 び 欠 席 者	出席者：渡辺龍也、清野智美、中村政義、村野哲也、北口良夫、瀬口圭志、本間由美子、前田啓子、山田行雄、比留間毅浩 （事務局）協働推進課長、協働推進課主査、協働推進課主事
報 告 事 項	報告事項1 第3回武蔵村山市市民協働推進会議の会議結果について 報告事項2 委員からの質問事項等への回答について
議 題	議題1 武蔵村山市協働事業提案制度の提案事業の第二次審査について 議題2 その他
結 論 （決定した方針、残された問題点、保留事項等を記載する。）	議題1 協働事業提案制度提案事業の第二次審査について 提案団体によるプレゼンテーションを3団体実施した。 議題2 その他 次回会議の開催日程 第5回会議は10月7日（水）午後6時から、中部地区会館（市役所4階）401大集会室で開催する。
審 議 経 過 （主な意見等を原則として発言順に記載し、同一内容は一つにまとめる。） （発信者） □印：座 長 ○印：委 員 ●印：事務局 △印：提案団体 ▲印：協働担当課	議題1 武蔵村山市協働事業提案制度の提案事業の第二次審査について 事業番号26-1 団体名：武士団・村山党の会 事業名：中世・村山郷を中心に活躍した「武蔵武士団・村山党」を活かした地域おこし第2弾 -提案団体によるプレゼンテーション ○ 市民への周知として、村山党の概要や歴史を紹介するパネルの展示等は行っていないのか。 △ デエダラまつりでパネルの展示を行った。 ○ 公共施設等で甲冑の現物を展示したら効果的なPRになるのではないか。 □ 購入する備品の内訳と積算根拠を示してほしい。また、スケジュール表や予算書等の内容が、当初提案されたものと大幅に変わっている。 △ 提案時には具体的に決まっていなかった予定や、新たに参加することを決定した行事等があるためである。また、作成する甲冑の数を減らしたことによる予算の変更等もある。 ○ 原則として、事業の内容は提案の時点で確定させておくべきである。やむを得ず内容を変更する必要がある場合は、事前に再提出するべきである。 □ 事業の意義や地域振興への想いは理解できるが、公金を使って事業を実施するというをしっかり意識していただきたい。提案にあたり、予算の積算根拠等も示すべきである。

- 村山党をテーマにした商品の開発、販売とはいつ行うのか。協働事業の期間中である3年以内に実施するのか。
- △ まず28年度中に村山党のオリジナルキャラクターを考案し、それに関連した商品を開発したいと考えているが、具体的なことはまだ決まっていない。
- 予算書に開発費等が記載されていないということは、3年以内に開発するための具体的なスケジュールはまだ考えられていないということか。
- △ そのとおり。
- 28年度に参加予定の「さくらまつり」と、協働事業終了後の展望に記載してある「村山党武者行列桜まつり」は、同一の事業か。
- △ そのとおり。
- 市担当課との役割分担や協働の意義についてはどのように考えているのか。
- △ 団体の主な活動目的は地域振興であるので、産業観光課の施策と一致していると考えている。また、産業観光課が所管するイベントに積極的に参加するなど、良い関係が築けていると感じている。
- ▲ 市は主に、広報に関する役割を担っている。手づくり甲冑教室や郷土史講演会を開催する際に、市報やツイッター等で広報している。
- 収入として25名分の会費を計上しているが、現在会員は25名いるのか。
- △ 現在の会員は16名である。手づくり甲冑教室等を通じ、参加意思のある人が何名か見受けられるので、会員数の増加を見込んで25名と記載した。
- 現在完成している甲冑の数は。
- △ 現在完成しているのは7領程度である。今年度中に15領揃える予定であり、3年間で、個人の甲冑を含め40～50領の完成を目指している。
- 完成した甲冑の保管場所についてはどのように考えているのか。
- △ 保管場所を確保できるという会員が数名いる。
- 個人の家か。
- △ そのとおり。
- 補助金により作成した甲冑なので、個人の所有物になってはいけない。保管する甲冑が個人の所有物ではない旨を記載した覚書を交わすようにしていただきたい。また、備品購入費の内訳や積算根拠を記載した予算書と、新しい予定のスケジュール表を再提出していただきたい。
- △ 10月6日（火）までに事務局に提出する。

事業番号26-2

団体名：いつひよファミリー～with 石田倫依

事業名：ひろげよう！子育て支援の輪プロジェクト

-提案団体によるプレゼンテーション

- 今年度で3度目の提案であるが、これまでの事業経過を見てきて、良い事業を実施していると感じる。一方で、団体と市担当課の関係性が上手く機能していないように感じる。お互いどのように感じている

か。

- ▲ ホタル観賞会や親子コミュニティ広場を見学したが、子育て支援の良い事業が実施されていると感じている。
- 今年度から着任したとのことだが、協働事業に関して前任者からの引継ぎはあったのか。
- ▲ ほとんど無かった。
- 人事異動の際に十分な引継ぎが行われないというのは問題である。
- △ 昨年度に比べ良い関係が築けていると感じているが、事業を提案する際に提案書の文言を修正させられたことや、前例が無いので実施できないと言われたこともあった。
- 前例が無いので実施できないとはどのようなことか。
- △ 新しい玩具の導入を提案したが、前例が無いということで許可されなかった。
- 提案書の文言を修正させられたというのはどのようなことか。
- 今年度から、まず団体がボランティア・市民活動センターに提案書案を提出し、センターが書類のチェックをした後に協働推進課へ提案書案を提出する。提案書案を受け付けた協働推進課が市担当課を決定し、その後、団体、センター、市担当課、協働推進課で調整を行うという形になった。団体の想いと市の考えをすり合わせる上で、提案書の文言を修正した経緯があった。
- 今年度から提案の方法が変わった。上手く周知されていなかったかもしれないが、理解していただきたい。今後の活動についてはどのように考えているのか。
- △ 子ども家庭支援センターでの事業は継続していく。また、子ども・子育て支援新制度が開始されたことに伴い、子育て支援の充実が掲げられているので、可能な範囲で関わっていきたい。
- 国の補助制度は活用できないのか。
- 詳細はわからないが、子育て支援関連の事業は補助を受けやすいのではないか。
- これまで事業を実施してきた成果を自己採点すると、5点満点で何点だと思うか。
- △ 協働事業を始めた当初に掲げた目標に対しては、2点である。利用者の観点からは、5点の事業が実施できていると感じる。
- 協働事業終了後、市とどのように関わっていくのか、またこの事業がどのようなになってほしいのか、考えを聞きたい。
- △ 協働事業終了後に市の事業として継続したモデルケースが無いので、具体的にはまだわからない。利用者からは、日数を増やしてほしいという声や、市内の全児童館で実施してほしいという意見が出ているが、団体のスタッフの人数や労力を考慮すると、これまで通りに継続していくことは難しいと考えている。可能ならば、市として予算を計上し、全児童館で事業を実施してもらい、そのサポートをできたらと考えている。
- 協働事業終了後、市の事業として予算化し、継続していくのが理想ではあるが、団体としても人数の増加や自己財源の確保など、力を付ける必要がある。
- 利用者アンケートの結果は、市担当課に公表しているのか。
- △ 今年度から公表している。
- 団体育成型から事業を継続してきた中で、意義のある重要な事業を実施していると考えられる。団体の法人化を検討してはどうか。
- △ 仕事をしながら活動しているのが現状であり、活動の核となるメンバーがいらないことから、法人化するのは難しいと考えている。

- 事業の柱は、出張いつひよファミリーの会と親子コミュニティ広場の二つであると思うが、出張いつひよファミリーの会に関しては人件費が計上されていない。
- △ 出張いつひよファミリーの会は無償で実施している。また、親子コミュニティ広場は安全性の確保が非常に重要であり、動員人数を増やしていることから人件費を多く計上している。
- 片方の事業には人件費を払い、もう片方の事業は無償で実施するというのは、スタッフの不満にもつながるのではないか。やはり法人化するなど、自己財源の確保に努めていただきたい。

事業番号 26-3

団体名：グラシオス プラント パートナー

事業名：武蔵村山市を花と緑であふれる素敵 な まち に して癒しの景観を創る

-提案団体によるプレゼンテーション

- 予算書に記載されている、水道の引込工事とは。
- △ 自動灌水装置を取り付ける工事である。
- 報償費とは誰に支払われる経費か。
- △ 講習会や植栽の講師に支払う経費である。
- 将来的には市の補助金に頼らない活動を継続するとあるが、具体的にはどのような考えを持っているのか。
- △ デエダラまつりに出店し、花の販売による収入や、地元企業との連携を考えている。
- 現在実施している事業では収入はないのか。
- △ 子ども向けの花育講習会で、参加費を徴収した。
- 市民や商店など、対象を広げて講習会を検討しているとのことだが、室内で講習会を実施することにどれほどの意義があるのか疑問である。実際に野外で植栽を体験し、土や花に触れながらやる方が効果的ではないか。
- △ 講習会でも花育のスキルを伝えることができる。初心者の参加も受け付けている。
- 本来は屋外で、実際に土や花に触れながらやるべきである。
- ▲ グリーンヘルパーの資格を持った会員を講師として、市が実施している講座と一緒に講習会を開催し、参加者には植栽の体験をしてもらっている。
- △ 本来セミナー等は有料とし、収入にするべきである。収支の考えが甘いのではないか。
- 植栽と講習会に係る経費の割合を教えてください。
- △ 購入する花は、全て植栽に使用するものである。講習会で使用する花代は参加者が負担している。
- 公共施設周辺に植栽することも大切だが、最も重要なのは、花や緑を増やす意識を市民に根付かせることではないか。小学生への花育も、市内全校で実施したから一段落とするのではなく、小学生は毎年入れ替わるのだから、継続してこそ意義がある。
- 公共施設周辺に植栽するのならば、高齢者や障害者が利用する施設を対象としてはどうか。

	<p><input type="checkbox"/> 高齢者や障害者と一緒に植栽をすとなお良い。</p> <p><input type="radio"/> 小学校で開催している祭りで、植栽体験のコーナーを設けてはどうか。きっかけ作りになるのではないか。</p> <p><input type="checkbox"/> 小学生への講習会や花育を実施する場合は、事前に教育委員会を通すことで円滑に事業を進めることができる。</p> <p><input type="radio"/> 商店への講習会を実施する場合は、商工会女性部に協力を仰ぐと良いのではないか。</p> <p>△ 自治会を対象にした事業等は考えていた。本日いただいた意見を参考に、今後の活動を検討していきたい。</p> <p>議題2 その他</p> <p><input type="checkbox"/> 10月9日の会議では、今年度初めて事業を提案する2団体がプレゼンを予定しており、質疑応答に時間を要することが予想されるが、当日はプレゼン後に採択すべき事業についての議論も行う予定である。来年度は、質疑応答に時間を要すると予想される事業と採択に係る議論が同じ日にならないように事務局には配慮をお願いしたい。</p> <p>(次回会議の開催日程)</p> <p>● 第5回会議は10月7日(水)午後6時から市役所401大集会室で開催する。</p>
--	---

会議の公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開 ※一部公開又は非公開とした理由 <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; border-bottom: 1px solid black; height: 40px; margin-top: 5px;"></div>	傍聴者： 2 人
-------------	---	----------

会議録の開示・非開示の別	<input checked="" type="checkbox"/> 開示 <input type="checkbox"/> 一部開示 (根拠法令等：) <input type="checkbox"/> 非開示 (根拠法令等：)
--------------	---

庶務担当課	協働推進部 協働推進課 (内線： 242)
-------	------------------------

(日本工業規格A列4番)